

11月度 例会 個人 山行報告書		報告者	津田 廣一	参加 メンバー	CL:津田 廣一 利栄子 中井 裕美
		報告日	12/12		
山域	大峰山系	山行日	12年11月10日(土)		
山名	八経ヶ岳				

山行目的	近畿の名山を楽しむ	コースタイム(天候:天気図記号)
------	-----------	------------------

配布先
集会:12
山行:1
リーダー-
原紙:集会担当者

ルート図(地図を見て正確に)

2.5万分の1地図: 弥山、南日裏

11/10 快晴
05:00 起床
05:20 道の駅 杉の湯川上発
06:30 行者還トンネルP着
(登山口)
06:50 登山口発
07:50 奥駆道出合1本(5分)
08:15 弁天ノ森(通過)
08:40 聖宝ノ宿跡1本(10分)
09:40 弥山1本(10分)
10:20 八経ヶ岳(10分)
10:45 明星ヶ岳(35分)
11:35 八経ヶ岳(通過)
12:00 弥山1本(10分)
13:05 弁天ノ森1本(10分)
14:05 登山口下山
16:15~17:15 あきののゆ
(大宇陀温泉)
22:00 豊橋(自宅)着



山行報告 昨夜、19時に自宅を出発。天気予報だと明日は晴れ。ハンドルも軽く、伊勢湾岸、東名阪から名阪国道へ。針ICで降り369号線を南下。今夜の眠り薬を求めて途中のコンビニへ。「アルコール類は置いてません」の返事に、妻に呆れられながら針ICへ戻って、焼酎の小ボトルをゲット。登山口に最も近い道の駅に11時半に到着。後ろ座席を倒して、寝床の準備。ゲットした小ボトルをお湯割りで飲んで、12時に就寝。

5時に起き、車の座席を元に戻して登山口を目指す。周囲が明るくなるにつれ、快晴を確信。紅葉が素晴らしく、写真目的の車が道路上に多く止まっている。登山口に着くや、寒さに震えながら、早々に準備して出発。ツアーの団体さんに道を譲って頂いて、まずまずのペースで最初の急登を登る。1h歩いて、奥駆道出合へ。ここからは、平坦になり、弁天ノ森を快調に通過。ブナ林の中を進む内に、聖宝理源大師像前へ到着。行動食を食べている内に、先程のツアー団体さんが到着。ガイドさんらしき人が、何やら解説している。場所をお譲りして、歩きだすと標高が登るにつれ、樹氷に着飾った木々が目立ってくる。苔や下草の上にも露が白く凍っているのか、幻想的な風景が広がっている。「綺麗! 樹氷って、初めて見た。」連れ合いの二人も大喜びだ。頂上直下の急登も、疲れを感じる事なく、弥山の頂上へ到着。弥山神社へお参りしては、いよいよ八経ヶ岳を目指す。樹氷で覆われた山肌が美しく、樹間の道が白いトンネルとなっている。通過する時に、溶けた樹氷が時折、頭上に落ちてきてヒヤリとし、大笑いしながら進む。30分も歩くと、八経ヶ岳山頂に到着。

握手と記念写真。360度の山並みが見える。登山者が増えてきた事もあり、ついでに明星ヶ岳まで足を延ばす事にした。奥駆道から、上の方へ延びた小道を登っていくと着いた。誰もいない3人だけの頂上だ。八経ヶ岳・弥山・山上ヶ岳等を眺めたり、南方の山を見ながらゆっくりと昼食を食べ、陽だまりを十分に堪能しては、下山の途についた。快調に、3ピッチで下山。大宇陀温泉“あきののゆ”で汗を流しては、大満足の山行であった。



確認
(リーダー)
津田
12.11.25
作成
(報告者)
津田
12.11.25

リーダー所見
近畿の名山としての八経ヶ岳を、名残の紅葉を楽しみながら登ろうと思ってきたのだが、山頂付近の樹氷も素晴らしく、何か、非常に得をした感じに山行であった。登山口までのアプローチが長い山ではあるが、最初の奥駆道へ出るまでの急登を過ぎると、なだらかな道が続き、樹林の中も楽しめる山であった。